

【様式①】令和5年度 学校評価書(小・中・特別支援)

学校名 明郷小学校

校長名 加藤 美智子

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
希望あふれる未来を自ら拓く力を育むための教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> 学校・家庭・地域における、めざす子ども像の共有と、その実現に向けた教育課程を編成する。 従来のコンパスカリキュラムを活用しつつ、ロイロノートなどのデジタルを駆使した学習活動を効果的に行う教育課程を実施する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度の学校評価を受け、ホームページやスマート連絡帳等を活用し、積極的に家庭や地域に様子を発信することができた。また、教育公開日やフリー参観を設定し、地域や家庭に児童の様子を公開した。 児童が主体的に学習し、自身の考えを整理するためにロイロノートを効果的に活用できるように、ICT活用推進委員会の職員を中心に活用法を検討し、すべての教職員で共有した。 	<p>学校関係者評価委員会から</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナが5類になり、子ども達の様子を見る機会が増え、頑張っている様子がわかった。 学習支援のボランティアとして、家庭や地域が学校教育にたくさん関わることができてよかった。 授業参観の様子から学校が積極的にICT機器を活用したり、子ども達が上手にタブレット端末を活用したりしていることがよくわかった。 	<p>改善の方向</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、学校の活動をHP等で発信し、家庭や地域に子どもの様子を積極的に紹介していく。 タブレット端末を用いた授業について今後も積極的に研修し、児童が「わかった」「できた」と実感できる授業作りを行う。
コミュニティ・スクールの機能の充実と岐阜市型小中一貫教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 専門能力スタッフやコミュニティ・スクール等の地域人材を積極的に活用する。 中学校区で連携し、登下校等地域におけるあいさつに重点を置いた発達段階に応じた指導を継続する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 本校コミュニティ・スクールの柱の1つである地域との連携・協働学習について、コロナ禍以前の活動にも積極的に取り組み、地域人材を活用した。 年間2回、中学校や家庭や地域と連携したあいさつ運動に取り組むことで、地域と願いを共有した指導を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 見守りボランティアの地図の作成により、地域人材の存在を全校児童が知ることができるようになってよい。 あいさつの言い方を変えるだけで、子ども達が挨拶を返してくれる。学校でも参考にしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の物的・人的リソースの継続的な活用と発掘を行い、「ぎふMIRA'S」の取組を充実させる。 児童会を中心に校内だけでなく、地域においてもあいさつが活性化されるような取組を検討していく。
あたたかさや働きがいにあふれる学校づくり	<p>管理職のリーダーシップのもと、教育の質を保ちつつ、思い切った学校業務改革を実施し、すべての教職員が働きやすい職場環境づくりを行う。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> 行事を精選したり日課の見直ししたりすることによって、放課後等の時間に余裕が生まれ、教材研究の時間を確保することで職員の間外勤務を減らすことに努めた。 教材研究の時間を確保できたことで、児童が「わかった」、「できた」と実感できる授業づくりができ、教師は働きがいを感じる学校づくりが実現できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が「わかった」、「できた」と実感できる授業改善を目的に、教材研究をするための時間を確保するにあたり、日課を変えたことの成果がアンケート結果にも現われており、よい。 	<ul style="list-style-type: none"> 日課の変更が授業改善につながったが、依然として月45時間以上、年間360時間以上の時間外勤務となっている職員が数人いるため、管理職のリーダーシップのもと、教育の質を落とすことなく、さらなる学校業務改革を実施していきたい。
災害、事故、感染症、生徒指導事案等に対する安全性の確保	<ul style="list-style-type: none"> 家庭や地域と連携を図り、様々な非常事態等における「自分の命は自分で守る」ことの意識を醸成する。 いじめ防止対策について、校長、いじめ対策監のリーダーシップのもと、生命の尊厳への理解を深める学びを推進する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今年度、全ての学年で地域と連携した防災学習を初めて実施し、発達段階に合わせた系統だった防災学習をすることができた。 「いじめは絶対にダメ」を合言葉に、いじめや疑いのある事案について即日対応に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 能登半島地震を教訓に、今後一層、家庭や地域と連携した防災学習が大切となる。 いじめは絶対にしてはいけないという認識は児童には定着しているだろう。今後もいじめは絶対に許されないという指導を継続してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間4回の命を守る訓練において、実際に災害が起こった場合を想定した訓練を行う必要がある。 いじめの加害者への指導はもちろんのこと、傍観者への指導も行き、「いじめは絶対にダメ」という認識を更に高めたい。
教育環境と学校財務環境の整備及び効果的な活用	<ul style="list-style-type: none"> 管理職や校務主任を中心として、安心・安全な教育環境のための点検整備の確実なチェックと校務員との連携を図る。 教育効果を上げるための適切な予算執行を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 毎月15日の安全点検の確実な実施と、不具合や危険箇所については、校務員や事務職員と連携し、修繕箇所の対応ができた。とくに、児童の安全が確保できない箇所については、修繕要望を出し、迅速な対応ができた。 事務職員と連携を図り、適切で計画的な予算の執行を図ることができた。PTAからの学習補助費についても、計画的な予算の執行ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の安心安全を保つことができるよう、今後も学校の教育環境整備に努めてほしい。 公金という認識のもと、適切な予算執行に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 修繕要望を出しているが、未対応となっている箇所について、確実に次年度に申し送り、新年度早々に再度、修繕要望を提出し対応を図る。 定期的に職員に購入希望の物品を確かめ、一層、教育効果が上がるような予算執行に努める。

HPアドレス: <https://gifu-city.schoolcms.net/meigou-e/>